

令和8年2月20日

三木市議会
議長 大眉 均 様

民生産業常任委員会
委員長 内藤 博史

行政視察報告書

下記のとおり委員会行政視察を実施いたしましたので、会議規則第107条の規定により報告します。

記

1 参加者

内藤 博史 (委員長)、板東 聖悟 (副委員長)、又吉 健二、戸田 昌樹、岸本 和也、おぎはら 吉江、中尾 司郎、初田 稔 計8名

2 視察内容等

日 時	場 所	内容及び対応者
1月22日 14:00 ～ 15:30	神奈川県 三浦市	神奈川県ライドシェア「かなライド@みうら」 について (対応者) 政策課 課長 鷺阪 慎太郎 政策課 グループリーダー 小野 恭平 三浦市議会 議長 神田 眞弓 議会事務局 局長 福田 正雄 議会事務局 議会総務グループリーダー 幸田 友樹
1月23日 9:30 ～ 11:00	千葉県 市原市	ゴルフの街いちはらの取組みについて (対応者) 経済部観光振興課 課長 仲野 光一 経済部観光振興課 主幹 稲田 康男 経済部観光振興課 ゴルフの街推進係 係長 石井 達矢 市原市議会 議長 伊佐 和子 議会事務局 議事課 藤岡 信也
1月23日 13:00 ～ 14:30	千葉県 長生郡 長南町	地域おこし協力隊の定着について (対応者) 副町長 佐久間 静夫 産業振興課課長補佐 荒井 和紀 地域おこし協力隊員 竹渕 真博 地域おこし協力隊員 佐藤 広都

			株式会社ながいき農園 代表取締役	酒田 海
		長南町議会 議長		松野 唱平
		長南町議会 副議長		河野 康二郎
		長南町議会 総務経済常任委員長		森川 よしのり
		議会事務局 局長		今井 隆幸
		議会事務局		山本 裕喜

3 事前質問

(1) 神奈川県ライドシェア「かなライド@みうら」について（三浦市）

ア 神奈川県内でライドシェアを導入されているのは三浦市のみですが、三浦市で始めた背景や導入に至るまでの経緯、県との関わりについてご教示ください。

イ 地域公共交通会議での主な意見をご教示ください。

ウ 実証実験では2事業者でしたが試行運行で1事業者となった経緯について

エ 令和7年度予算額と利用実績について（想定より利用者は多かったのか少なかったのかも含めて）

オ 令和7年度当初予算で試行運行の事業費として約720万円計上されていますが、直接的な税金投入額をご教示ください。

カ 「+500円」は独自の設定ですか。

キ バス停など300mルールについて、19時以降はバスの運行はないのでしょうか。

ク ライドシェアの時間帯設定の経緯について

ケ タクシー事業者の意見や安全管理について

(ア) 面接や研修等の負担や採算性

(イ) ドライバー教育：国の認定講習等安全教育は実施されていますか。

(ウ) ドライブレコーダーや車内カメラ等の車両設備の整備とリアルタイムでの確認はどのように対応されていますか。

(エ) 運行前後に行われているアプリを活用した遠隔でのアルコールチェック等の実施において課題等がありますか。

(オ) ドライバーにはどのような方が登録されていて、処遇と実際のドライバーからの意見はどのようなものがありますか。

コ 試行運行概要に「事業を継続させるためには、ドライバーの確保も必要」とありますが、現在ドライバーの募集をされていないとのこと。ドライバーの登録の過不足状況や平均稼働人数、平均収入をご教示ください。

サ 利用者への対応に就いて

(ア) GOアプリを活用した理由と、キャッシュレスやアプリに対する市民の声と高齢社会等へのフォローについて

(イ) 妊産婦や障がい者のタクシー利用券が使用できない理由について

(ウ) 乗車時の名前の確認やアンケートは必須ですか。

- (エ)利用者からの評価や改善要望などはどのようなものがありますか。
- シ 自家用車内での暴言・暴力行為、車内の損傷、利用者からの苦情などのトラブルに対する対応体制はありますか？実際に発生した事例があれば差し支えない範囲でご教示ください。
- ス 神奈川版ライドシェアの愛称「かなライド」やロゴマーク採用について、市民への一般公募によるものですか。
- セ 「かなライド@みうら」を行ってみての課題について
- ソ 自家用車活用事業の可能性と課題について
- タ 試行運行期間（令和7年4月1日から令和8年3月31日）以後の運行見直しについて
- チ 日本版ライドシェア（道路運送法第78条3号）への方向性について
- ツ 国レベルでのライドシェア制度拡大に対して、現場の視点からどのようなご意見をお持ちでしょうか。

(2) ゴルフの街いちはらの取組みについて（市原市）

- ア 様々なゴルフ施策に対する予算額と全体的な効果について
- イ 市内33ヶ所のゴルフ場を保有している貴市では、年間175万人が利用されていますが、県内、県外利用者数の内訳について
- ウ 貴市では、ゴルフプレイヤーに地元の飲食店や宿泊施設を利用してもらうために、どのような取組みをされていますか。（観光地や飲食店等への導線づくりや「ついで消費」、「延泊需要」を生む仕組みなど）
また、経済波及効果についても教えてください。
- エ ブリヂストーンゴルフボールがふるさと納税返礼品となっていますが、寄附実績について
- オ 市原市におけるプロトーナメント開催状況について
- カ 市原市での春中春高ゴルフ誘致、開催は考えられていますか。
- キ ジュニアゴルファー育成、練習環境整備、大会開催について
- ク 当市では中学校部活動の地域移行を進めるにあたり、先行事例としてゴルフ部を創設する予定です。貴市における中学校部活動の地域移行に際し、ゴルフを核としたものは考えられていますか。
- ケ 市ゴルフ協会、市スポーツ協会との連携、関係について
- コ 商工会議所の会員にゴルフ場が多くありますが、会議所との連携について行われているものがあればご教示ください。
- サ スタンプラリー「いちはらゴルフ場巡り33」概要について
- シ ゴルフ未経験者対象「手ぶらdeゴルフ」の本格コースを使ったゴルフ体験の詳細（目標数と達成率含む）をご教示ください。
- ス 市原市民のゴルフプレイヤー率とゴルフ施策に対する市民の反応（特にゴルフをしない大人からの声）
- セ 非常に充実した施策を行われていますが、現状で足りていない部分や課題を感じられていますか。また、今後新たに取組みたい施策などがあれば教

えてください。

ソ ゴルフ利用者の高齢化（利用税非課税含む）の課題について

タ ゴルフを活かした地域振興の取り組みにおいて、単にイベントを実施するだけでなく、来訪者や経済波及効果などの具体的な指標や KPI を設定し、その数値をもとに成果を検証し、改善につなげる PDCA サイクルを回されているかどうか、お伺いしたいです。もし取り組まれている場合は、数値目標や改善事例などがあればご教示ください。

(3) 地域おこし協力隊の定着について（長南町）

ア 地域おこし協力隊の募集方法について（市の HP 以外に活用した方法）

イ 応募状況と採用基準について（複数応募の際にどういった項目を優先し採用するのか）

ウ 隊員に活動してもらおう事業（活動分野）の設定は、誰がどのように決めていますか。

エ 貴町と雇用契約としない理由について

オ 募集にあたって、おためし地域おこし協力隊や地域おこしインターンを活用されたか。活用されていれば、その効果について

カ 隊員を受け入れる際に、空家家財道具など片付け事業、空家利用登録者応援事業などを活用されていますか。

キ 地元農家と隊員との関係性と地元農家の受入体制について

(ア) これまでに起こった採用後のトラブルや活動に制限をかけられるような例（よそ者扱いなど）はありますか。その場合、町は解決に介入されましたか。

(イ) 地域住民との調和が必要かと思いますが、地域内でのつながり（寄り合い・草刈りなど）はどの程度の頻度でありますか。また、行政としてどのような取り組みを行われましたか。

それらの取組は、隊員にとってどのような効果がありましたか。

(ウ) 隊員の活動が制限される、または、思っているような活動が行われていないと見受けられた場合などがありましたか。その場合の対応方法について。

ク 隊員が活動されたことで地域に起きた変化はありますか。

ケ 隊員とその家族が増えたことによる町内の生活環境の整備について

(ア) 日常生活に必要な交通機関について

(イ) 買い物、病院、銀行などの整備について

(ウ) 子育て世代が移住したときの関心ごと、幼少中高校など教育環境について

コ 移住されても環境に適応できず貴町を去られた家族数と理由について

サ 貴町が隊員に選ばれている理由をどう分析されていますか

シ 地域おこし協力隊もですが移住者のプロジェクトが大きな影響があるように感じます。両者の関わりや関係性について。

ス 現在、感じられる事業の課題はありますか。

4 所感

(1) 神奈川版ライドシェア「かなライド@みうら」について（三浦市）

三浦市の「かなライド@みうら」は、夜間の公共交通空白を補うため県主導で自家用車の有償運送制度を用いた実証実験として運行されている。ドライバーは二種免許の取得が必要で、配車はGOアプリを活用し、市は一定の財政支援を行っているものの、利用数はまだ少なく採算面の課題が大きい。

三木市での導入を検討する際には、すでに「地域ふれあいバス」やデマンド型交通「チョイソコみき」を展開している現状を踏まえ、夜間に特化した交通サービスの必要性や地域ニーズを継続的に調査することが重要である。

ライドシェアのドライバー雇用形態や運営コストについては、持続可能なモデルの構築が求められ、行政支援からの段階的な自立を目指す必要がある。

三木市の交通施策の多様化に向けた参考となるが、補助金の活用や市民理解の促進、トラブル対策も十分に検討したうえで、暮らしの安全・利便性向上に結び付ける取組として導入が必要かどうか協議が必要である。

(2) ゴルフの街いちはらの取組みについて（市原市）

市原市は日本一のゴルフ場数（33 コース）を背景に、小学校へのゴルフ体験導入や高校生の職場体験ツアー、就職支援など多面的にゴルフ振興を図られている。

三木市でも今後は、プレイヤーの高齢化への対策としてこれらの取組を参考にしつつ、「練習場への無料レンタルクラブ設置」のように子どもやゴルフ未経験者が日常的にゴルフに親しめる環境づくりや、女性・若年層へのアプローチ強化を進めることが課題となる。

このように、地域のゴルフ関連産業の魅力発信や経済波及効果の拡大、就業機会の創出、ゴルフ人口減少への対策に加え、インバウンド対策のような新たな企画の検討を進めることが、三木市の持続的な施策実現に資するものと考えられるため、さらなる施策強化が望ましい。

(3) 地域おこし協力隊の定着について（長南町）

長南町では地域おこし協力隊が4名活動されている。隊員の種類は任用型と委嘱型があると要項に示されているが、現状、柔軟に活動ができる委嘱型を採用されている。

隊員の孤立や任期後のキャリアが不透明なことにより地域への定住・定着に繋がりにくいことや、職員が協力隊に関する全てを支援することは難しいことが課題である。その課題解決のため中間支援組織「一般社団法人 長南町地域づくり推進機構」が隊員の研修や相談、情報共有を担い、隊員支援と職員の負担軽減の両面で効果を上げている。

三木市も協力隊制度を始めたばかりであるため、長南町の成功例をモデルに、協力隊の採用時に活動ビジョンの共有を徹底し、中間支援のような支援体制を構築することで、協力隊が自立し地域資源として長く機能できる体制づくりを充実させることが望まれる。